本学教員執筆書籍の紹介

松野　丈夫　編集

人工股関節置換術 THA のすべて－安全・確実な手術のために

メジカルビュー社　定価16,800円（税込）

伊　藤　　浩

本書は人工股関節置換術（THA）をオールラウンドに取り扱った１冊であり、主にこれから THA を学ぶ研修医の方々、そして実際に THA を術者として始めようとしている研修医の方々のために執筆されました。あらゆる手術進入法および種々の機種の手術法に対応していることから、実際面で、特に手術手技の面で大いに参考になると思います。

まず、THA の歴史、基本的な解剖に始まり、皮切、進入、器具の選択と取り扱い方、具体的な手術手技、後療法から合併症の対策まで、手術一連の流れを詳細に、フルカラーのイラスト・写真で解説しています。基本的なセメント使用およびセメントレスの THA だけでなく、最近注目されている最小侵襲手術 MIS THA、人工頭置換術、さらにはインフォームドコンセントやクリニカルパスなど周術期全般をカバーしています。

我が国において THA が行われるようになってから、未だ40年程度に過ぎません。THA が始められた当初は「人工関節の弛み loosening」という概念がなかったため、THA の長所である疼痛軽減、可動域の回復という日常生活上の利点のみが強調され、将来的に THA が弛むかもしれないことに対して何の疑問ももたずに手術が行われていました。しかしその後 THA の弛みが多発し、現在までの40年間、THA の「弛み loosening」に対する戦いが展開されてきました。弛みに対する臨床的、基礎的研究がさかんに行われ、THA 機種の形状、各コンポーネントの設置角度、セメンティングの良否などの差による弛み発生率の違いなどについて、研究が重ねられました。弛みが問題となり始めた当初、発想の基本にあったのは「セメント病 cement disease」という言葉に代表される様に、セメントを弛みの原因とする単純な誤った発想でした。しかしその後の多くの研究が積み重ねられ、弛みの原因が関節面から発生するポリエチレン摩耗粉にあるということが判明しました。その間、セメンティング方法の改良がなされ、セメント非使用 THA も開発されました。そして THA が行われ始めた当初と比較し、格段に安定した中・長期成績が得られるようになりました。

この様に使用機種や手術手技の問題が解決されつつある現在、いかに適切な手術手技ならびに短い手術時間で THA を行うかが術者側の大きな問題となっています。最短且つ的確な進入路で正確なコンポーネントの設置さえ行えば、25年から30年の THA の耐久性が期待できます。しかし我が国における THA に関してのまとまった手術書は少なく、特にこれから術者として THA を行いたいと考えている若手の先生方への示唆に富んだ、解りやすい教科書と言える本はほとんど見出せません。本書では実際の臨床の場で日々 THA を行っている整形外科医が、THA の各種手術進入法、セメンティン法を含めた各コンポーネントの設置法および固定法についてポイントを挙げながら、イラストや術中写真を多用して解りやすく説明しました。また、近年盛んに行われるようになった最小侵襲手術 MIS THA、ナビゲーション手術、手術時間の短縮方法や在院日数の短縮に直接影響を与えるクリニカルパスの設定、術後リハビリテーションの問題についても章を設けました。

本書はこれから THA を志す、あるいは現在取り組んでおられる先生方にとって最も役に立つ教科書の一つであると著者らは自負しており、是非ともお手元に置いていただきたいと思います。